

1 情勢報告

おおとよ小学校5年生が田植えを体験学習



田植えに挑戦する子どもたち

大豊町立おおとよ小学校の5年生14名が5月7日、学校の近くの棚田で田植えの体験学習を行いました。普及所は講師となり、は種から田植え、収穫までの管理作業や米の栄養価などについて説明しました。児童は、田んぼで農家から植え方の指導を受け、泥だらけになりながら田植えをしました。作業を終え講義を聞いた後、「米づくりの大変さや栄養のことがよく分かった」などの声が聞かれました。

7月には、草刈り作業と田んぼの生き物などについて学習する予定で、普及所は引き続き、農家や関係機関と協力し、小学校での農業体験学習を支援していきます。

米ナス部会が現地検討会を開催！



雨除けハウスでの現地検討会

5月9日、J A土佐れいほく園芸部米ナス部会は現地検討会を開催し、生産者11名が参加しました。

会は、J A出資型農業生産法人「(株)れいほく未来」のハウスで行われ、参加者が定植からこれまでの生育状況や一芽摘芯の管理作業などを確認し、意見を交換しました。その後、J A本所で講習会を開き、普及所から生育初期での樹づくりの重要性や側枝の整枝作業、今後の灌水・追肥方法などについて指導しました。

雨除け栽培は、これまで順調な生育で経過し、5月はじめから収穫が始まっており、今後収穫量が増えていく見込みです。

ユズの輸出拡大に向け、関係者が協議！



ユズ輸出事業について検討の様子

5月13日、青果ユズの輸出に向け、J A土佐れいほく柚子部会員とJ A・町村・県の関係職員が普及所で、アドバイザーや現地取引先からのアドバイスをもとに、出荷規格の見直しやそれに伴う価格の設定、出荷箱の形状などについて協議しました。

その結果、新規格が決まり、荷姿については店頭で嶺北ユズのPRにつながるよう、箱の上蓋を立てる形状にすることになりました。

輸出先については、新たにイギリスにも出荷することが決まりました。

今後、普及所は、ユズのEU輸出への継続・拡大に向け、登録園地の栽培管理を指導していきます。

中山間地の活性化を目指す！ ～地域協議会総会を開催～



熱心に審議される総会風景

4月30日、大豊町・本山町・土佐町の3町で農村集落活性化支援事業にかかる地域協議会総会が開催されました。

この事業は、複合経営拠点整備の一環として取り組む国のソフト事業で、大豊町の(株)大豊ゆとりファーム、(財)本山町農業公社、土佐町の(株)れいほく未来がそれぞれ中心となり、庭先集荷、新規就農者研修、農作業受託、集落機能活性化、6次産業化などの各種計画が提案され、承認されました。

地域での期待は大きく、今後ビジョン作成やそれぞれの取り組みの具体的な協議と実践のなかで、普及所は提案や助言を行い、支援していきます。